


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2019 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
 研究発表報告書

申請者氏名	河部 剛史	会員番号	0032312	
申請者の所属・職名	東北大学 大学院医学系研究科 病理病態学講座 免疫学分野 助教			
出席会議名	17th International Congress of Immunology			
発表論文タイトル	Differentiation of innate-like T-bet ^{high} memory-phenotype CD4 ⁺ T lymphocytes is promoted by homeostatic IL-12 derived from CD8 α ⁺ dendritic cells in steady state			

実施結果

申請者は、2019年10月19-23日に中国・北京で開催された 17th International Congress of Immunology に出席し、上記のタイトルにて口頭発表を行った(写真)。申請者が発表を行ったセッションである「Helper T Cells and Subsets」は、今回設定された数ある Workshop の中でも注目を集めるセッションの一つであり、多数の参加者の中、有意義な研究発表ならびに意見交換をすることができた。特に、申請者が提唱する「MP細胞」の新生仔期の機能的な重要性、あるいはヒト



における同細胞同定の必要性を指摘された点は、今後の研究の方向性に極めて重要な示唆を与えるものであった。

また、他の多くの参加者の発表を聞く中、数十色にもわたるマルチカラーフローサイトメトリー、マルチカラーコンフォーカルイメージング、各種シングルセル解析等、免疫学における最先端の技術に触れることができ、今後、これらの技術を自らの研究に取り入れる重要性を痛感させられた。申請者の「MP細胞研究」にこれらの技術を組み合わせることで、同細胞の質的特異性や産生維持機構の解明など、研究のさらなる発展につながるものと考えられる。

さらに今回、Zhu、Germain 両博士(ともに米国 NIH)をはじめ、多くの共同研究者と意見交換をする機会を得た。進行中の共同研究について具体的な議論を行うことができ、この点においても非常に有意義であった。

今回得られた非常に貴重な経験をもとに、自らの研究のさらなる進展に向け、今後も全力を尽くす所存である。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。